

総合計画審議会の報告及び基本計画の修正について

1 計画全般に対する意見

(1) 協働の視点が表せていない

今回の計画で「協働」について強化しようとしているにもかかわらず、計画の中でそのようなメッセージが伝わってこない。「協働」を進めるにあたって、行政はどのような役割を担うのかを明確にする必要がある。(役割分担が分かるように)

(例)「〇〇を充実させる」＝ これまで通り行政が主体的に取り組むような印象を与える

(修正案)⇒「市民等が活動できる環境を整える」

(2) 将来像実現に向けた方向性を明確にする

(指標も含めて方向性が伝わってこない)

(3) 従来型の縦割り感が払拭できていない

2 基本計画の修正

上記1の指摘をふまえ、各作業部会に以下の共通する指摘事項を示し、改めて確認を依頼。

No.	共通する指摘・意見
1	<p>「2 重点取組と行政の役割」について、「協働」の視点が欠落している。</p> <p>行政が何をするのかが、明確に表現できていない。</p> <p>(例) 情報提供、啓発、支援、促進など</p> <p>これに対応して「3 市民・事業者・団体の取組」が記述され、つながりがあるものにならないものか。</p>
2	<p>「2 重点取組と行政の役割」について、</p> <p>行政の取組について、方向性を明確にできないものか</p> <p>これまでどおり継続していくように取れる。将来展望が明確ではない。</p> <p>(例) 何に重点をおくのか、どんな視点で取り組むのかなど</p>
3	<p>「6 他の施策との連携」について</p> <p>追加できるものなど再精査できないものか。</p> <p>政策の枠組みが、事務事業の積み上げや担当する組織割りになっており、縦割り感があり、それぞれが、別々に進められるように感じる。</p>

3 指標に関する考え方について

(1) 審議会における指摘事項(全般的なもの) ※個別の指摘事項は「資料2」参照

(ア) できる限り数値を設定できないものか。(矢印だけでは方向性がよく分からない)

(イ) 市民意識調査についても水準を示せないものか。

(例) 災害に備えている市民の割合＝23.8%

平成32年度の目標を矢印で示すと、少し上昇した 20%台でも問題ないのか、そうでないのかが分からない。災害による被害を少なくするには 20%台では良いはずがなく、短期間にもっと上昇させる必要があると認識しているはずなので、そういったことが読み取れるような記載とすべき。

(2) 指標に関する考え方の整理

< 諮問案作成時点の考え方 >

目標値＝必ず達成しなければいけない目標、という観点から不確定要素が多くある中、時代の変化に対応できるようリスク回避型の表現となっていた。

< 今後の修正案作成にあたっての考え方 >

方向性をしっかり示す、メッセージを伝えるという計画の目的を達成するため、指標についても目標値を数値化するなどの方法により、方向性を示す内容とする。また、市民意識＝矢印の記載、といった一律の定義を当てはめるのではなく、それぞれの指標の持つ特徴に合わせて個別に対応する。

(例)・平成 18 年度と平成 23 年度の数値があるものについては、経過を評価し平成 32 年度に求める基準を目標値として示せるものは、示していく。

・現状の数値を大幅に上げていく必要があるものは、指標が与えるメッセージを考慮し、水準を示すことを再検討する。

4 その他の課題

(1) 部長マニフェストとの整合性の確認

(2) 基本計画間の調整

総合計画の趣旨をふまえ、事業レベルまで詳細に記載しているものなどは、事業名称ではなく、事業の目的へと置き換える(事業レベル⇒施策レベルへの置換え)など、全体的に精査する。